

# 東光寺だより

東光寺の桜 薄墨桜 満開



平成5年に植樹しました根尾産薄墨桜が今年も満開です。

仙台藩志会との交流を記念し故高橋芳美さんに植えていただいたのが見事に咲き競っています。因みに仙台では、覚範寺、青葉城、仙台博物館でおなじく咲いているはずですよ。

## 4月8日はお釈迦様のお誕生日 花まつり

仏教ではその日を降誕会と称して各寺でそのお祝いの花まつりをいたします



お釈迦様は、インドのルンビニーでお生まれになりました。生まれたばかりのお釈迦様は東西南北の四方に七歩ずつ歩かれ右手で天を指し、左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と唱えられたと伝わっています。その言葉は「天の上にも天の下にも、唯我れひとり尊し」と読みますが、決してお釈迦様一人だけが尊いわけではありません。これはご自身を生きとし生けるものの代表として、世界中においてすべての命のあるものの代表として、世界中においてすべての命あるものが尊い存在であることをしめされたのです。

さて、私たちは多くの人たちと関わり持ちながら生きています。仮にその数が十人とすると、その十人は皆違う考えや価値観をもって生きています。そ

の考えや価値観が同じようなものであれば、その人に共感し、協力し合えるでしょう。しかしその考えが真逆であったりすると、その人とは分かりあえず、同調することなどできないはずですよ。そうすると争いは避けられません。人の考えや価値観は成育歴にともなう、その人なりのこだわりやとらわれなのです。良い悪いの問題ではありません。一番身近な夫婦間、家族内でも人はみな違いをもっているということです。そういう違いを持つ多くの人たちと関わり持ちながら生きていくためには、その違いを認め合うことが一番大切なことなのです

「ああそうなのか、そういう考えもあるんだな」と自分とは違う他人を認め受け入れることなのです。そうすれば「離婚・・・」「家族崩壊・・・」もないんです。 参考文献「妙心寺 布教のしおり」  
しかし世の中そううまくはいきません。

ここからは春岳和尚の見解です。

みなさん、台所にある食器を洗うスポンジを想像してみてください。陶器や磁器の茶碗やお皿を洗う時それと同じ硬さのスポンジを使ったらどうなりますか。大切なお皿もスポンジも傷だらけになって最悪割れてしまいます。硬いもの同士が当たったら両方が駄目になってしまいます。

しかし、本来のスポンジはやさしく相手を包み込み相手の形になって寄り添い、用事が済んだら元の自分の姿に立ち戻る。人間関係も相手の考えを受け入れてしまうこともなかなかできません。自分というものを見失ってしまってもだめです。

私はいつもスポンジになったつもりでお話をしています。お釈迦様の言われた「てんじょうてんげゆいがどくそん」は、私にとってはスポンジのところです。命あるもの皆大切、あなたも、私も・・・

今月の己書

桃花千恵子



令和5年4月 文責 東光寺住職 鷲見邦隆